

観光サービス講習会開催!!

りんどう
LC通信
かわら版
平成15年
3月28日
第8号
PR委員会発行

3月10日、久留米商工会議所主催で、「元気な久留米づくりのチョットしたコツ」と題して、L.筒井博文が講演されました。その内容を紹介します。

町の中の多様性

「第1回久留米お菓子コンテスト」が、平成15年2月10日と11日の両日、地場産にて開催されました。全国から201点の応募作品の中から、2回の審査を経て最優秀グランプリと入賞作品を決定しました。応募作品は、久留米をイメージした、ユニークなものが目白押し。特に、グランプリ作品の「酒粕風味菜の花ケーキ」(兵庫県加古川市より応募)は、酒粕と菜の花のモチーフで仕上げた、久留米の香りいっぱいの作品。なんと、このケーキを「ウチで作らせてください!」との声が久留米のお菓子屋さんより続出し、久留米のお菓子業界に、大反響を呼んでいます。



→お菓子コンテストの模様。地場産にて。

このコンテストを機会に久留米のお菓子をもう一度見直して欲しい、という願いを込めて、今後このコンテストが回を重ね



今回のコンテスト、グランプリ作品

久留米って、焼鳥屋さんの軒数日本一ってホント???

仕事を終えての夕暮れ時、池町川界隈を歩くと、美味しそうな焼鳥の香しい匂いが、あちらこちらから漂ってきます。くるめスタイル編集部独自の調査によると、人口1万人に対しての焼鳥屋さんの数が、ここ久留米は、7.46軒という、日本一の多さだったのです!ちなみに、東京23区は3.84軒、福岡は4.42軒、さらに日本三大焼鳥の町宣言をしている、埼玉県東松山市でも7.2軒なのです!この事実を、何かに使わない手はありません。いくつかアイデアがあるので、まず、年に数回の「焼き鳥学会」を設立して、全国の焼き鳥関係者に呼びかけて、「全国焼き鳥サミット」を開催してしまうのです!さらに、このサミット開催にあわせてラーメンフェスタも開

催します。このように、あけばの交流広場と東町公園をメイン会場に展開し、ラーメンフェスタ会場として、新世界で練り上げます。久留米の街で焼き鳥あり、餃子あり、ラーメンで締めくり:とすれば、筑後地区はもとより全国から老若男女が集まってくることも間違いなし!と、考えるだけでワクワクしてきませんか?そんな大掛かりなイベントなんて:ムリ!なんてちよつとも思っただアナタ、役者:大道具、小道具は揃っているんですよ、久留米には。あとは、どのようにお料理するかにかかっています。そして、いかに飽きのこないものにしていくかが、知恵のだしどころではないでしょうか。

よその街を見て我が街の良さに気づく!

つい先日、今話題の大分県豊後高田市に、行って来ました。ここは、久留米から高速で2時間半のところにある人口一万七千人の小さな街です。この街には、たとえ平日でも観光バスがどんだんやって来ているのです。そのワケは、街づくりにあります。この街で私が感じたのは、なんの変哲もない町を、商工会議所の一人の方が、商店街を動かし、おもちゃの博物館を誘致し、昭和の町というコンセプトのもとに、うまく動いている、ということなのです。街の規

模的には、久留米の明治通から通り町に続く「千歳通り」ぐらいです。なぜ、こんなに人があつまっているのかと言うと、昭和の町というレトロチックなコンセプトもさることながら、マスコミの力に負うところが大きいと、会議所の方のお話。ですから、これをマスコミがつくったブームで終わるのか、またはおもちゃの博物館のある昭和の町として根付くか、というのは、今後数年間の高田市民の努力にかかっていると思えます。そして、そんな街を見てから久留米の街を振り替えると、久留米という街はなんて資源豊富な、そしてその資源をことごとく活かしていない街なんだろうと思えました。久留米らしい街の資源がいっぱい転がっています。全国に自慢できるもの...とんこつラーメン、焼き鳥、日本酒、食べ物以外には美容室、病院...。では、これを久留米らしい街づくりの役立てられるかどうかは、久留米に住む私たちが、一人一人の宝物を見つけ、それを磨く以外に方法はない、と思います。如何に、自分らしさを演出できるかが、勝負ではないでしょうか。大型店舗に影響されない商売方法で、独自のスタイルを確立し、専門性を追求することで、久留米ならではの魅力的な商いが出来るのでは、と思います。

くるめすたいる 発行人 筒井博文
来る3月29日(土)
久留米アルティナホールにて、菊池参加のバンドのライブが開催されます!
場所/アルティナホール:3F貸ホール
久留米市東町33-1(九州ヨアヒビ)開場/PM6:00/開演/PM6:30

犬声狎語

二月第二例会でのL.津福の「雑談」はおもしろかった。さりげなく話される中味に含蓄のあるものが随所に光っていた。成程こういう「情報タイム」のやり方もあるのかと感心させられた。今までになかった手法であった。▼入会歴三十年足らずのりんどうの歩みを淡々と語るに云ふのはやさしい様で難しい。又、自分の入会時の不熱心さを素直に、そして段々とクラブの仕事へ情熱が燃えていく有様が聴くものによく伝わったと思ふ。自分の仕事とクラブの幹事の仕事との両立「忙中閑あり」と一言で片づけられないことをやりとげたことでボランティアの何たるかを学んだとは聴いていて考えさせられた。▼有馬とのエクステンションのこと(事件)オープンの席でこれだけ明確に言った人は氏が初めてではなかったか。両方の誰かもし誘われなかった。寂しい思いをした。そう云ふ中で「孤高」とした姿勢はご立派と云ふよりはかたはな。英語のゼントルマンの語源は自立できる人と云意味で、一人でも毅然としていれることである。日本人は集団の中では付和雷同に流される人が多いと云ふ。ものの中層が良しと言うものかもしれないが、時としては人間は清冽でいることも必要であることを聴いて感じた。私には、あれは「雑談」でなく「精神訓話」にさへ聞こえた。